

寺報

龍正寺

日なた 184号

明
百
八
人
生
日
延



<令和 5年 9月>

宝龍会
護持会

経職一言

南無妙法蓮華經

お題目と言います。

妙法蓮華經(法華經)は、お釈迦様が84年に寝て
舍利弗尊者に法話され、一部八卷二十八品六萬
九千三百八十余文字。題目は妙法蓮華經と名付けられ
た。日蓮大聖人は比叡山へ遊学された時、法
華經の教えを学ばれ、国と国民を救うには
法華經の教えだと思われ、我が身をもって法華經の
勉強に励まれ、敬い、歸依され、妙法蓮華經
の頭に南無を付けられた。「南無」とは敬い、歸依す
る意味がある。比叡山遊学を終えて千葉清澄寺
に戻られ、旭が森にて朝暁光(日天神)に向かって
南無妙法蓮華經と第一声を唱えられ
た(立教開宗)のがお題目の始まりであ
ります。日蓮大聖人は法華經の教えを説法され

は「説法されるほど法難にあわれた。大難は
二度、小難は教しれどもと言葉にのべられ
法難あわれても、すべて法華經を信じるが故
諸天天神の加護により救われた。法華經の
行者日蓮大聖人は我が身に法華經の教えを
体験され、我が身に法華經を読まれ、法華經
お題目の眞の教えを説かれて61歳で御
遷化されました。この世に日蓮大聖人が誕生
されていなければ「法華經の教えはあっても、お
題目はなかったと思います。国土、社会、生活が
安穩である事を願っておられたのである
樂しければ「樂しほど、苦しければ「苦しいほど」
眞のお題目を唱え日蓮大聖人の足元におすが
り下さい。

9月は秋季彼岸会です御先祖様の御供養
をいたしましょう

合掌

南無妙法蓮華經

「戦後78年の今」

わたくしの父は戦死でございます…

わたくしが4才 妹は2才でした 母は28才で
未亡人となりました…

苦勞に苦勞を重ねての道の中でかわいい

わが子を育てくれましたが 母の苦勞と

わからずでした!! 母子寮でお世話になって

のくらしでした 72才の時に父の永代供養の折に

護国神社さんの宮司さんより戦亡者の方々の

お話しをお聞き致しました時に…

父への思い 母への思いで 胞がいはいなり

涙が流れて流れて 涙の中でごめんなさいと

詫言いました…

親不幸をどうか許して下さいと申すわたくしで

した 詫言っても詫言ってもですが 気づかせて頂け

ました ことが 何よりの有りかたさよりに思えた!!

母の父の顔も知らず 父の愛も知らず育ち
ましたが 年を重ねました 今に父とお母
母の苦勞も心より思えて感謝・感謝の
お礼心であります こんな有り難い思いに
気づかせてもらえたことも 仏縁の
道の中よりと嬉しみてございます

東の空には父・母がおおしますと学んで
おります 夜空に月が輝き星が光り
そんな夜空に向い父・母 義父義母の
名を呼びます。わたくしの名を申します...

今にも暑い暑い一日でしたが無事を見守
ってもらってありがとございましたーと話します
合掌を致します 「己が目で見ると思ふな
暑い月の光で月をみ子のた 月が光らな
みえんのやる」 この意味合は自分一人で

大人になったと思うな…常に親の
おかげを忘れるなということの意
味合いと同じであると学びました
誰しもわかってはいることですが親が
七くなってから親の有りがたさに気づく
様です…え…わたくしも今の幸せにお礼を申します

暑い暑い日々もまだ終りそうではあり
ませんが 秋も少しづつ感じられている
かの様に思います 秋の虫の鳴き声と
きこえて参りました… くりきんとんの香り
もと新聞よりです 秋と思うふびきより
少しばかり ホット致します心のゆきか…
あるように思います 夏の暑さの疲れが残
る大事な自分を労わらしましょう 今日一日
お疲れさまと誂しましょう ごきげんの自分であら
ねるといいでしょうが いろいろあって大変ですもの…

南無妙法蓮華經

でもふじの一日を
よろこびましょう

合掌

～ 父の供養 ～

お盆に実家の墓参りに行きました。

主人が「お父さんは67オで亡くなっただのか～」とつぶやきました。あ、... そうだね。、他界して19年が過ぎている。父の面影を偲びました。以前も父の話しもしましたが、本当に良く働く父でした。とて息子煩悩でした。

子供の頃父の寝ている姿を見た事はありませんでした。

定年退職を迎えるまでは、元気な人でした。定年後も何か仕事かしたい!! が口癖でした。

私自身は早婚で生活子育てに追われ、自分の事で精一杯、今のように父を思う心のゆとりがありませんでした。

何も言わず来ない父の優しさに甘えていた様に思います。

父が他界した同年代になり、「67オ、て早いなー。もっと生きていてほしかった!」

やりたい事もあ、ただ3つ。娘として親孝行したかったなと思う事はたくさんあります。

もし今父が生きてくれているら、一緒に食事を楽しんだり会話しながら笑ったり... 何気ない生活をしたと思います。

何気ない生活の中にこそ、父との思い出がたくさん
つまっています。

今、私が亡き父に出来る事は御題目を唱える事、
父の供養をさせてもらう。父が生まれ変わり侍せにな
ってほしいと切に思います。

もし、ご縁があれば来世で会いたい。少しでも今世
での恩返しをしたいと 생각합니다。

9月23日は秋季彼岸です。御先祖様、懐かしく思
う方がいらしゃる方々は思い出してあげてください。

それが供養になると 생각합니다。思い出し御題目をお
経を唱えさせて頂くと、なお最大の供養になると 思います。

私は今秋もお寺で父の彼岸供養をして頂きます。

お寺の父の位碑の前で、父と懐かしい話しをしたいと楽しみに
しています。

南無妙法蓮華經

「心のあり方」

『あなたは尊い』の本を読んで一部抜粋しました。

わかりあえないとヤキモキするのは、相手に対して「わかるはずだ」と期待することから始まるのではないのでしょうか。逆に言えば「わかりあえる」ためには、お互いに「わからなさい」と わきま えることが大前提として必要なのだと思います。

日蓮は自分と他者の関わり方を「**龜鏡なければ我が面をみず。敵なければ我非をしらす**」とし、鏡がなければ「自分の顔を見ることのできない」ように、敵がいて初めて自分の欠点を知ることができるのだと述べます。

つまり日蓮は、相手を敵として見なしているときのその心のあり方を問うています。

敵は私であり、私とは私自身を見つめる心にこそあると言えるかもしれません。

敵は私でありという所に、自身の今の心情と重なり、己との単対いであるなと思いました。

ちょうど「**龜鏡なければ我が面をみず**」という文面をお寺の外とびらに貼ってあるのを その本を見た

タイミングで気がつくということは、何かの教えや学びが必要なのではないかと考えさせられました。

自分の行動、言葉でその反応がある。すべて鏡のようになりのままをうつし出す。

起る出来事は己の、じ次第... 日々、学びである。

手を合わせていることで、じのあり方が整ってきていると感じます。まだまだ未熟ではありますが、私という崗々にまけないようにしていきます。

< 9月行事予定 >

9月13日(水) 10:00~ { 宗祖日蓮大聖人龍口報恩会
鬼子母尊神) 祈禱会
七面大明神)
大古久尊天祈願会

23日(土) 13:00~ 秋季彼岸中日法要会

< 9月住職の予定 >

9月27日(水)~28日(木) 宗門慶讃法要
千葉小湊護国寺

< 9月の予定 >

9月6日(水)	各々の時間で"	清掃、準備
↓	↓	↓
12日(火)		
13日(水)	法要後	片付け、準備
14日(木)	各々の時間で"	清掃、準備
↓	↓	↓
22日(金)		